

新学習指導要領で評価が変わる！

新学習指導要領における学習評価の進め方 (中学校 保健体育科)



平成 24 年度から、中学校では新学習指導要領が全面実施となります。新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方については、平成 22 年 11 月に「評価規準の作成のための参考資料」が、平成 23 年 7 月には、「評価方法等の工夫改善のための参考資料」が、国立教育政策研究所教育課程研究センターから示されているところです。この「学習評価の進め方」は、新学習指導要領に基づく学習評価を円滑に進めていくための手引きとして、佐賀県教育センターが作成したものです。各学校における新学習指導要領に基づいた指導と評価を推進していくためにお役立てください。

(主な内容)

- 1 新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方とその具体
- 2 中学校保健体育科における教科目標、評価の観点とその趣旨について
- 3 中学校保健体育科における学習評価の進め方
- 4 中学校保健体育科における学習評価事例
- 5 中学校保健体育科における学習評価の進め方 Q & A



新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の基本的な考え方

新学習指導要領の下での学習評価については、児童生徒の「生きる力」の育成をめざし、児童生徒の一人一人の資質や能力をより確かに育むようにするため、目標に照らしてその実現状況をみる評価（目標に準拠した評価）を着実に実施し、児童生徒一人一人の進歩の状況や教科の目標の実現状況を的確に把握し、学習指導の改善に生かすことが重要です。併せて、学習指導要領に示す内容が確実に身に付いたかどうかの評価を行うことが求められています。

各学校における学習評価の進め方と留意点

各学校においては、評価規準を適切に設定するとともに、評価方法の工夫改善を進めること、評価結果について教師同士で検討すること、実践事例を着実に継承していくこと、授業研究等を通じ教師一人一人の力量の向上を図ること等に、校長のリーダーシップの下で、学校として組織的・計画的に取り組むことが必要です。また、年間指導計画を検討する際には、それぞれの単元（題材）において、観点別学習状況の評価に係る最適の時期や方法を観点ごとに整理することが重要です。このことが、評価すべき点を見落としていないかの確認や、必要以上に評価機会を設けることによる無駄を省き、効果的・効率的な学習評価を行うことにつながります。

新学習指導要領における学習評価の観点について

(1) 従前と新学習指導要領における学習評価の観点

従前の観点		新学習指導要領における観点
「関心・意欲・態度」	→	「関心・意欲・態度」
「思考・判断」	→	「思考・判断・ <u>表現</u> 」
「技能・ <u>表現</u> 」	→	「技能」
「知識・理解」	→	「知識・理解」

(2) 新学習指導要領における学習評価の観点の説明

「関心・意欲・態度」

これまでと同様、各教科の学習に即した関心や意欲、学習への態度等を対象としたもので、その趣旨に変更はありません。

「思考・判断・表現」

「表現」については、基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ、各教科の内容に即して考えたり、判断したりしたことを、児童生徒の説明・論述・討論などの言語活動等を通じて評価することを意味しています。つまり、ここでいう「表現」とは、これまでの「技能・表現」で評価されていた「表現」ではなく、思考・判断した過程や結果を言語活動等を通じて児童生徒がどのように表出しているかを内容としています。

「技能」

従前において「技能・表現」として評価されていた「表現」も含む観点として設定されています。

「知識・理解」

これまでと同様、各教科において習得した知識や重要な概念を習得しているかどうかを内容としたもので、その趣旨に変更はありません。

中学校保健体育科における教科目標、評価の観点及びその趣旨

1 教科目標

心と体を一体としてとらえ、適切な運動の経験と健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、楽しく豊かな生活を営む態度を育てる。



従前の学習指導要領からの変更は、「積極的に運動に親しむ資質や能力を育てる～」から「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てる～」となった部分です。これは、小・中学校の義務教育段階における教科の目標として一層の関連をもたせるという意図(小学校体育科の目標は「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる～」)とともに、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するという保健体育科の考え方を示しています。

2 評価の観点及びその趣旨

運動や健康・安全への 関心・意欲・態度	運動や健康・安全に についての思考・判断	運動の技能	運動や健康・安全に についての知識・理解
運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動の合理的な実践に積極的に取り組もうとする。また、個人生活における健康・安全について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。	生涯にわたって運動に親しむことを目指して、学習課題に応じた運動の取り組み方や健康の保持及び体力を高めるための運動の組み合わせ方を工夫している。また、個人生活における健康・安全について、課題の解決を目指して考え、判断し、これらを表している。	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。	運動の合理的な実践に関する具体的な事項及び生涯にわたって運動に親しむための理論について理解している。また、個人生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。

3 内容のまとめ

【体育分野】

- A 体づくり運動
- B 器械運動
- C 陸上運動
- D 水泳
- E 球技
- F 武道
- G ダンス
- H 体育理論



【保健分野】

- (1) 心身の機能の発達と心の健康
- (2) 健康と環境
- (3) 傷害の防止
- (4) 健康な生活と疾病の予防



4 体育分野の評価の観点の趣旨

体育分野の目標や指導内容は、従前の学習指導要領では全学年を通したものになっていましたが、発達の段階のまとまりを踏まえ、第1学年及び第2学年と第3学年を分けて示しています。



【発達の段階のまとまり】

小学校から高等学校までの12年間を見通して、小学1年～4年までを「各種の運動の基礎を培う時期」、小学5年～中学2年までを「多くの領域の学習を経験する時期」、中学3年～高校3年までを「卒業後に少なくとも一つの運動やスポーツを継続することができるようにする時期」として、発達の段階を3つの段階で考えたものです。ですから、中学1・2年と中学3年を分けて示してあるんですね。

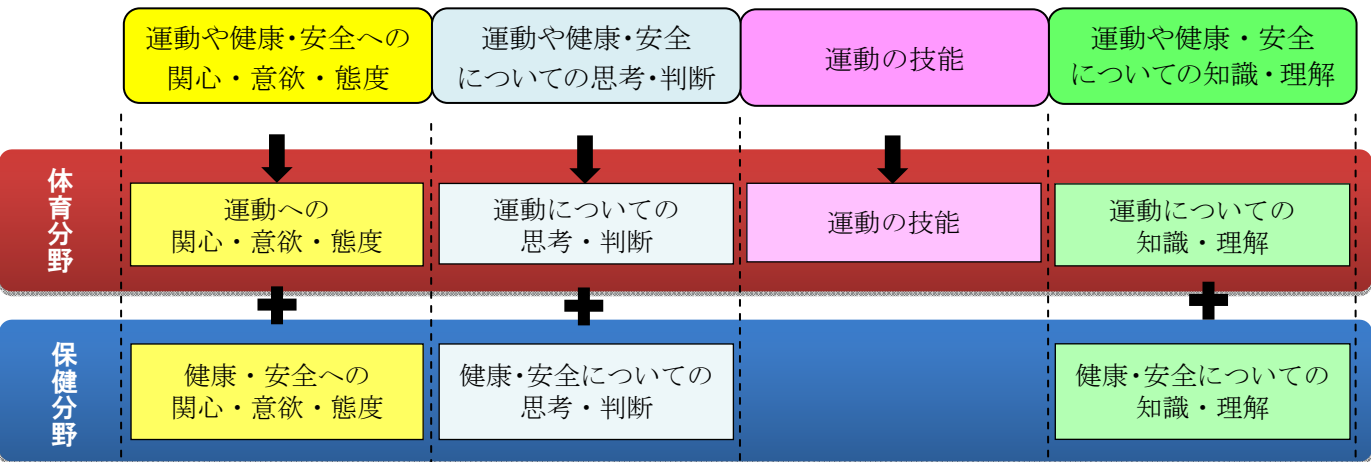
	運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
第1学年及び第2学年	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、公正、協力、責任などに対する意欲をもち、健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組もうとする。	運動を豊かに実践するための課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。また、体力を高めるための運動の組み合わせ方を工夫している。	運動の合理的な実践を通して、勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。	各運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、伝統的な考え方、各領域に関連して高まる体力、健康・安全の留意点についての具体的な方法及び運動やスポーツの多様性、運動やスポーツが心身の発達に与える効果についての考え方を理解している。
第3学年	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康・安全に留意して、学習に自主的に取り組もうとする。	生涯にわたって運動を豊かに実践するための自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。また、自己の状況に応じて体力を高めるための運動の計画を工夫している。	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。	選択した運動の技の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法及び文化としてのスポーツの意義の考え方を理解している。

5 保健分野の評価の観点の趣旨

健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
心身の機能の発達と心の健康、健康と環境、障害の防止、健康な生活と疾病の予防について関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとする。	心身の機能の発達と心の健康、健康と環境、障害の防止、健康な生活と疾病の予防について、課題の解決を目指して科学的に考え、判断し、それらを表している。	心身の機能の発達と心の健康、健康と環境、障害の防止、健康な生活と疾病の予防について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。

中学校保健体育科における学習評価の進め方

＜保健体育科における学習評価の観点＞



※ 体育分野の「A 体づくり運動」の体ほぐしの運動は、技能の習得・向上を直接のねらいとするものではないこと、体力を高める運動は、運動の計画を立てることが主な目的となることから、運動の技能は設定しません。学習指導要領の「A 体づくり運動」で示されている（１）運動については「運動についての思考・判断」で評価するように整理されています。
⇒指導要録等の４つの観点による評価を行う場合、体育分野と保健分野を合わせて評価することになります。

評価規準は、どうやって設定するの？

体育分野の評価規準を設定するに当たっては、国立教育政策研究所から公開されている「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料」（以下参考資料と表記）に示されている内容のまとまりごとの「評価規準の設定例」を必要に応じて修正し、単元の評価規準を設定します。

次に、各学校の指導計画に基づき、単元の評価規準を具体化するために、学習活動に即した評価規準を設定します。

保健分野の評価規準の設定するに当たっては、学習指導要領を踏まえ、単元の目標を明確にするとともに、「評価規準に盛り込むべき事項」を活用し、単元の評価規準を設定します。

次に、具体的な授業をイメージして「評価規準に盛り込むべき事項」や「評価規準の設定例」を参考に学習活動に即した評価規準を設定します。

【「B 器械運動」の評価規準の設定例】			
運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動の知識・理解
- 器械運動の学習に積極的に取り組もうとしている。 - よい演技を認めようとしている。 - 分担した役割を果たそうとしている。 - 仲間の学習を援助しようとしている。 - 健康・安全に留意している。	- 学習する技の合理的な動き方のポイントを見付けている。 - 課題に応じて、技の習得に適した練習方法を選んでいる。 - 学習した技から、「はじめ—なか—おわり」などの構成に適した技の組み合わせ方を見付けている。 - 仲間と学習する場面で、仲間のよい動きなどを指摘している。	- マット運動では、回転系や巧技系の技を組み合わせるための、滑らかな基本的な技、条件を変えた技、発展技のいずれかができる。 - 鉄棒運動では、支持系や懸垂系の技を組み合わせるための、滑らかな基本的な技、条件を変えた技、発展技のいずれかができる。	- 器械運動の立ち上がり動作の習得している。 - 技の名前について、体例を説明している。 - 器械運動の高まる学習している。

「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料」より抜粋

【「健康と環境」の評価規準の設定例】		
健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全の知識・理解
- 健康と環境について、健康に関する資料を見たり、自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 - 健康と環境について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	- 健康と環境について、健康に関する資料等で調べたことに基づき課題や解決の方法を見付けたり、選んだりするなどして、それらを説明している。 - 健康と環境について、学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見付けたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。	- 身体や生活の環境について、適切な範囲に生活している。 - 飲料水や空気について理解し、生活に伴う廃棄物の処理について理解し、書き出している。

「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料」より抜粋

各観点の評価方法は？

【運動への関心・意欲・態度】の評価方法

□ この観点の評価は基本的に次の5つの項目について評価していきます。

(ゴシック) 内は第3学年の評価規準

・各領域の運動に積極的(自主的)に取り組んでいるか。

例「〇〇の学習に積極的(自主的)に取り組もうとしている」

・公正な態度で取り組んでいるか。

例「よい演技を認めよう(讃えよう)としている。」

「勝敗などを認め(冷静に受け止め)、ルールやマナーを守ろう(大切にしよう)としている。」

「フェアなプレイを守ろう(大切にしよう)としている。」

「(互いの違いや)よさを認め合おうとしている。」

・互いに協力して取り組んでいるか。

例「仲間に必要な援助をしようとしている。」(互いに助け合い教え合おうとしている。)

・自己の役割(責任)を果たしているか。

例「分担した役割を果たそうとしている。」(自己の責任を果たそうとしている。)

「話し合いに参加しようとしている。」

・健康・安全に気を配って(を確保して)いるか。

例「健康・安全に留意(確保)している。」

◇ この観点は、主に行動の観察により評価します。それぞれの項目について指導をした後、一定の期間を設け、評価機会を設定します。また、学習カード等の記述なども適宜参考にします。

⇒ 行動の観察、学習カード等の記述

【運動についての思考・判断】の評価方法

□ この観点の評価は次の4つの項目について評価していきます。(斜体) 内は第3学年の評価規準

・運動を行うための運動の行い方のポイントを見付けているか。

例「(自己の課題に応じた) 〇〇を実践するための運動の行い方のポイントを見付けている。」

・課題を見付けたり、課題に応じた練習方法を選んだりしているか。

例「(自己の) 課題に応じた練習方法を選んでいる。」

「自己やチームの課題を見付けている。」

・仲間と協力する場面で、役割に応じた協力の仕方を見付けているか。

例「仲間と学習する場面で、仲間のよい動きなどを指摘している。」

(仲間に対して、技術的な課題や有効な練習方法の選択に関して指摘している。)

「仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた協力の仕方を見付けている。」

・安全に留意して練習や試合を行っているか。

例「学習した安全上の留意点を他の練習場面や試合場面に当てはめている。」

(健康や安全を確保するために、体調に応じて適切な練習方法を選んでいる。)

(〇〇を継続して楽しむための自分に適したかわり方を見付けている。)



◇ この観点は、学習カード等にかかれた練習の計画などと実際の活動を合わせて評価する必要があります。考えたことや話し合ったことなどを記録として残すような手立てを行うことが大切です。相互評価等での友達からのアドバイスなども記録させておきましょう。

⇒ 学習カード等の記述、振り返りでの相互評価、チームの作戦ボード、行動の観察

【運動の技能】の評価方法

- この観点、運動を行う上で必要な基本的な技能や動きを身に付けているかどうかを評価していきます。
(斜体) 内は第3学年の評価規準

・運動を豊かに実践するための基本的な技能や動きを身に付けているか。

例「マット運動においては、回転系や巧技系の技を組み合わせるための、滑らかな基本的な技、条件を変えた技、発展技のいずれかができる。」

(マット運動においては、回転系や巧技系の技で構成し演技するための、滑らかに安定した基本的な技、条件を変えた技、発展技のいずれかができる。)

「ゴール型においては、ゴール前での攻防を展開するためのボール操作と空間に走りこむなどの動きができる。」

(ゴール型においては、ゴール前への侵入などから攻防を展開するための安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きができる。)

「柔道においては、投げたり抑えたりするなどの攻防を展開するための相手の応じた基本動作から、基本となる技ができる。」

(柔道においては、相手を崩して投げたり、抑えたりするなどの攻防を展開するための相手の動きの変化に応じた基本動作から、基本となる技、得意技、連続技のいずれかができる。)

- ◇ この観点は、実際に運動をしている生徒の姿そのものを見て評価します。一瞬の動きを評価する場面が多く、より具体的な評価規準を設定することが大切です。「中学校学習指導要領解説 保健体育編」には、具体的な指導事項が〈例示〉として明記されています。

⇒ 行動の観察(ビデオ等の活用)、学習カード等の記述、振り返りでの相互評価

[中学校学習指導要領解説 保健体育編 マット運動に関する例示の記述]

接転技群	第1学年及び第2学年	・体をマットに順々に接触させて回転するための動き方、回転力を高めるための動き方で、基本的な技の一連の動きを滑らかにして回ること。 ・開始姿勢や終末姿勢、組合せの動きや手に着き方などの条件を変えて回ること。 ・学習した基本的な技を発展させて、一連の動きで回ること。
	第3学年	・体をマットに順々に接触させて回転するための動き方、回転力を高めるための動き方で、基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて回ること。 ・開始姿勢や終末姿勢、組合せの動きや支持の仕方などの条件を変えて回ること。 ・学習した基本的な技を発展させて、一連の動きで回ること。

【運動についての知識・理解】の評価方法

- この観点は、以下に示した運動についての知識を理解しているかどうかを評価していきます。

(斜体) 内は第3学年の評価規準

・運動の特性や成り立ち (第1学年及び第2学年のみ)

例「○○の特性や成り立ちについて、学習した具体例を挙げている。」

・技術の名称や行い方 (第3学年も同様)

例「技術の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。」

・関連して高まる体力

例「○○に関連して高まる体力について、学習した具体例を挙げている。」

(○○に関連した体力の高め方について、学習した具体例を挙げている。)

・運動観察の方法 (第3学年のみ)

例(運動観察の方法について、理解したこと言ったり書き出したりしている。)

・伝統的な考え方（第3学年も同様）※武道のみ

例「武道の伝統的な考え方について、理解したことを言ったり書き出したりしている。」

（交流や発表の仕方について、学習した具体例を挙げている。）

・表現の仕方

例「発表会や競技会の仕方について、学習した具体例を挙げている。」

「表現の仕方について、学習した具体例を挙げている。」



◇ この観点は、授業の中でワークシートに書かれたり、発言したりしたことが評価の対象になるとともに、定期テスト等の知識に関わる問題での解答状況も合わせて評価を行うことになります。

⇒ 学習カード等の記述、授業での言動の観察、定期テスト等

【保健分野】の評価方法

□ 保健分野では、以下に示したそれぞれの観点について評価していきます。

【健康・安全への関心・意欲・態度】の評価方法

・指導内容に対する現状把握や自己の振り返りに関すること

例「〇〇について、健康に関する資料を見たり、自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。」

・指導内容に対する課題解決に向けた取り組みに関すること

例「〇〇について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。」

⇒観察、ワークシートの記述

※観察については、全員の生徒を1つの活動で評価することは難しいので、同じ評価基準で複数回評価できる活動を設定しておく必要があります。

【健康・安全についての思考・判断】の評価方法

・課題解決に取り組む過程に関すること

例「〇〇について、健康に関する資料等で調べたことを基に課題や解決の方法を見付けたり、選んだりするなどして、それらを説明している。」

・学習内容と自己の生活との比較やその説明に関すること

例「〇〇について、学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見付けたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。」

⇒ワークシートの記述、観察

※ ワークシートを利用する場合は、比較したり関係を見付けたりするなどの思考の過程が分かるような項目を設定しておくことが大切です。

【健康・安全についての知識・理解】の評価方法

・対象の具体的な内容の理解の状態に関すること

例「生活に伴う廃棄物の衛生的管理について理解したことを言ったり、書き出したりしている。」

「応急手当について理解したことを言ったり、書き出したりしている。」

⇒ワークシート、観察

体育分野「武道（柔道）」第1学年

ここでは、体育分野の4つの評価を12時間の単元の中でバランスよく設定しました。1単位時間に1つまたは2つの評価規準を設け、単元終了時に各時間の評価を総括して、単元の観点別評価として記録しています。武道の学習を計画する際は、その運動の経験の有無を十分に把握し、ある程度集中した期間で10時間前後の単元を設定することが大切です。今回の単元は、柔道の体験がほとんどない生徒を対象として計画していきます。

1 単元の目標

- (1) 次の運動について、技を高め勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、基本動作や基本となる技ができるようになる。
・柔道では、相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、投げたり抑えたりするなどの攻防を展開すること。
- (2) 柔道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役目を果たそうとすることなどや、禁じ技を用いないなど健康・安全に気を配ることができるようにする。
- (3) 柔道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

2 単元の評価規準

(○：第1学年の評価規準、●：第2学年の評価規準)

	運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
単元 の 評 価 規 準	○武道の学習に積極的に取り組もうとしている。 ○相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとしている。 ●分担した役割を果たそうとしている。 ●仲間の学習を援助しようとしている。 ○禁じ技を用いないなど健康・安全に留意している。	○技を身に付けるための運動の行い方のポイントを見付けている。 ●課題に応じた練習方法を選んでいる。 ●仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた協力の仕方を見付けている。 ○学習した安全上の留意点を他の練習場面に当てはめている。	○柔道では、投げたり抑えたりするなどの攻防を展開するための相手の動きに応じた基本動作から基本となる技ができる。 ●剣道では、打ったり受けたりするなどの攻防を展開するための相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技ができる。 	○柔道の特性や成り立ちについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ○柔道の伝統的な考え方について、理解したことを言ったり書き出したりしている。 ○技の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。 ●武道に関連して高まる体力について、学習した具体例を挙げている。 ●試合の行い方について学習した具体例を挙げている。
	①柔道の特性に関心を持ち、練習や試合に積極的に取り組もうとする。 ②礼儀正しく振舞い、伝統	①技を身に付けるために課題に応じた練習方法を選択している。 ②学習した安全上の留意	①崩し、体さばき、受け身を用いて投げ技の基本となる技を行うことができる。	①柔道の特性や成り立ちについて言ったり書き出したりしている。 ②武道の伝統的な考え方

学習活動に即した評価規準	的な行動の仕方を守ろうとしている。 ③ 禁じ技を用いないなど健康・安全に留意している。	点を練習や試合場面に当てはめている。	【支え技系】 ・膝車 ・支え釣り込み足など 【刈り技系】 ・大外刈り ・小内刈り ・大内刈りなど 【まわし技系】 ・体落とし ・大腰など	について、理解したことを言ったり書き出したりしている。 ③ 技の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。
	技それぞれの評価についても評価の規準が必要となります。しかし、柔道や器械運動のようにたくさんの技の中から生徒が選んで行う場合は、それぞれの技についての評価規準を記載することはありませんが、実際の授業では、指導する側が踏まえて指導を行います。 例) 体落とし (取り) 後さばきから相手を右(左)すみ前に崩し体落としができる。 (受) 体を横に向け両脚が重ならないようにし、腕全体で畳をたたくことができる。 このように評価規準を具体的にしておくことで、指導が明確になるとともに、評価する際の視点につながります。	② 固め技の姿勢や体さばきを用いながら、固め技の基本となる技や簡単な技の入り方や返し方を行うことができる。	【固め技】 ・けさ固め ・横四方固め ・上四方固め ③ 自由練習やごく簡単な試合で投げたり抑えたりすなどの攻防を行うことができる。	運動の技能の評価規準は、学習指導要領解説の〈例示〉を参考にしています。
	「単元の評価規準」は、国立教育政策研究所から公開されている「参考資料」に記載されている設定例です。単元計画を作る際には、下の「学習活動に即した評価」のように、<u>学校・学級の状況に即した具体的な評価規準を設定します。</u>			

3年間を見通した年間指導計画の作成

3年間で、学習指導要領及び学習指導要領解説に示された指導内容を、効果的・効率的に身に付けることができるよう、学校環境や地域環境を踏まえて決定する必要があります。特に第1学年及び第2学年においては、「B 器械運動」から「G ダンス」までの内容を2年間で指導することが示されました。そのため、指導内容の漏れがないように計画を立てることはもちろんのこと、本事例で示したような同一の指導内容を2年で行うような場合（武道の内容において第1学年で柔道、第2学年で剣道）やいずれかの学年で単独で扱う場合などに留意して年間計画を作成する必要があります。

本事例では、特に第1学年及び第2学年で必修化された武道の単元として第1学年で柔道を、第2学年で剣道を行うように計画しています。そのため、発達段階や競技特性を考慮して評価規準を設定しています。そのため、各観点での評価する項目を第1学年と第2学年で振り分けて計画するようにします。

単元の目標の設定

国立教育政策研究所から公開されている「参考資料」の第2編「評価規準に盛り込むべき事項等」を参考にして設定します。体育分野、保健分野それぞれの内容において【学習指導要領の内容】として(1)～(3)の目標が設定されています。その文章を参考にして単元の目標を設定します。

(1)は技能 (2)は態度
(3)は知識、思考・表現
の構成になっています。



(6)「F 武道」

【学習指導要領の内容】

(1) 次の運動について、技を高め勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、得意技を身に付けることができるようにする。

ア 柔道では、相手の動きの変化に応じた基本動作から、基本となる技、得意技や連絡技を用いて、相手を崩して投げたり、抑えたりするなどの攻防を展開すること。

イ 剣道では、相手の動きの変化に応じた基本動作から、基本となる技や得意技を用いて、相手の構えを崩し、しかけたり応じたりするなどの攻防を展開すること。

ウ 相撲では、相手の動きの変化に応じた基本動作から、基本となる技や得意技を用いて、相手を崩し、投げたりひねったりするなどの攻防を展開すること。

(2) 武道に自主的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとするなど、自己の責任を果たそうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。

(3) 伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解し、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

単元の評価規準の設定

国立教育政策研究所から公開されている「評価規準の作成のための参考資料」の第2編「評価規準に盛り込むべき事項等」を参考にして設定します。【「〇 〇〇(F 武道)」の評価規準の設定例】として具体的な規準が例示されているので、学校や学級の状況を踏まえて設定します。

この本事例では、武道領域において第1学年で柔道、第2学年で剣道を行うように年間計画で設定しています。そのため、技能、態度、知識、思考・判断の指導内容をすべて単一学年で評価するのではなく、2つの学年で主に指導・評価する内容をそれぞれに振り分けて設定しています。

【「F 武道」の評価規準の設定例】

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
・武道の学習に自主的に取り組もうとしている。 ・相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとしている。 ・自己の責任を果たそうとしている。 ・互いに助け合い教え合おうとしている。 ・健康・安全を確保している。	・自己の技能・体力の程度に応じた得意技を見付けている。 ・提供された攻防の仕方から、自己に適した攻防の仕方を選んでいる。 ・仲間に対して、技術的な課題や有効な練習方法の選択について指摘している。 ・健康や安全を確保するために、体調に応じた練習量を調整している。	・柔道では、相手を崩して投げたり、抑えたりするなどの攻防を展開するための相手の動きの変化に応じた基本動作から、基本となる技、得意技、連絡技のいずれかができる。 ・剣道では、相手の構えを崩し、しかけたり応じたりするなどの攻防を展開できる。	・武道の伝統的な考え方について、理解したことを言ったり書き出したりしている。 ・技の名称や見取り稽古の仕方について、学習した具体例を挙げている。 ・武道に関連した体力の高め方について、学習した具体例を挙げている。 ・運動観察の仕方について、学習した具体例を挙げている。

3 単元の指導と評価の計画（全12時間）

時間	主なねらい・学習活動	関心 意欲 態度	思考 判断	技能	知識 理解
1	学習1：オリエンテーション 1 基本知識（柔道の歴史、特性礼法、柔道着の扱い方など） 2 柔道のイメージづくり（ビデオの視聴） 3 体ほぐしの運動（ペアストレッチ等） 4 学習カードの使い方				
2	学習2：柔道に必要な基本動作と技を身に付けて楽しむ 1 本時のねらいの確認	①			
3	2 準備運動及び体ほぐしの運動	↓	②		
4	3 基本動作（投げ技の基本動作/固め技の基本動作） 4 対人技能（基本動作と投げ技の関連/基本となる技）	↓		① ②	①
5	5 簡易な試合	②			
6	6 整理運動 7 自己評価（学習カード記入）		①		②
7	学習3：身に付けた技能を用いて、総合的な練習、簡易な試合を工夫して楽しむ 1 本時のねらいの確認		②		①
8	2 準備運動及び体ほぐしの運動	②			
9	3 対人技能（基本となる技/技の練習方法）	↓	①		③
10	4 簡易な試合	↓			③
11	5 整理運動 6 自己評価（学習カード記入）	③		③	
12	まとめ 1 単元の成果の確認（得意な技等） 2 まとめの試合（大会方式） 3 単元のふりかえり 4 次の単元に向けた課題の明確化	③		③	



記録に残す評価は、1単位時間に1～2項目が適当と考えられています。本事例では、学習活動や指導内容に合わせて設定しています。「関心・意欲・態度」ではすべての生徒の活動状況を見取るために、評価する機会を複数時間に広げていることを矢印で示しています。

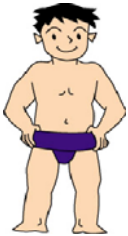
単元の指導と評価の計画の設定

ここでは、単元の大まかな指導とそれに対する評価の場面を計画しています。

- 「運動についての思考・判断」、「運動についての知識・理解」の観点については、指導後にその言動を学習カードの記述と行動の観察を通して評価するように設定しています。
- 「運動についての関心・意欲・態度」、「運動の技能」の観点については、指導後すぐに評価するのではなく、一定の評価機会を必要とするものとして設定しています。
- 特に「運動の技能」の観点については、指導後練習などを重ねて上達するものであり、その都度支援や称賛を行う状態であることを踏まえて、複数時間の評価機会を設定しています。

●指導内容及び「学習活動に即した評価規準」

ここでは、実際の授業を行う際の指導内容と評価規準を示しています。教師が授業の中で指導する内容とそれに対する生徒の実現状況の評価規準という関係は、「指導と評価の一体化」という原則に基づいたものです。

	運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
学習活動に即した評価規準	・ 1対1の攻防や他の種目にはない動きを体験することができること。 ・ 自分に合った得意な技を身に付け、練習や試合を工夫することができること。	・ 技の習得に向けての、個々の体格や運動能力、適性など応じた練習方法の提示。	・ 技の行い方。 ・ 技を効果的に行うための動き。	・ 柔道は日本古来のスポーツであること。 ・ 武道としての格闘的な面と礼法やマナーを重視する面があること。 ・ 近代スポーツとして全世界で親しまれており、オリンピックの種目になっていること。
	①柔道の特性に関心を持ち、練習や試合に積極的に取り組もうとする。	①技を身に付けるために課題に応じた練習方法を選択している。	①崩し、体さばき、受け身を用いて投げ技の基本となる技を行うことができる。 ②固め技の姿勢や体さばきを用いながら、固め技の基本となる技や簡単な技の入り方や返し方を行うことができる。	①柔道の特性や成り立ちについて言ったり書き出したりしている。
	・ 相手を尊重し感謝する「礼の心」が大切なこと。 ・ 柔道を行う上で、伝統的な礼法やマナーがあること。	・ 技の習得のための練習の場や試合場面で、学習した安全面の知識を活用する場面の設定。	・ 相手の動きに応じた姿勢や体さばき、崩し。 ・ 技を効果的に行うための連続技。	・ 伝統的な行動として、礼法やマナーがあり、相手を尊重し自分を律する態度が必要なこと。
	②礼儀正しく振舞い、伝統的な行動の仕方を守ろうとしている。	②学習した安全上の留意点を練習や試合場面に当てはめている。	③自由練習やごく簡単な試合で投げたり抑えたりすなどの攻防を行うことができる。	②武道の伝統的な考え方について、理解したことを言ったり書き出したっている。
	・ 格闘する競技であるため、ルールを守ったり相手を尊重する気持ちを持って、自分を律しながら柔道を楽しむ必要があること。			・ 技は、投げ技と固め技に大きく分かれ、投げ技にも系統があること。 ・ 技を行うための基本的な動作があること。
	③禁じ技を用いないなど健康・安全に留意している。	○の中は指導内容を、丸数字は評価規準を示しています。		



特に体育分野においては、観察を中心とした評価が多くなるため、より具体的な評価規準を設定することが大切です。そうすることで、運動中の一瞬の動きや生徒同士の言動を的確に見取ることにつながります。

また、評価方法については、たくさんの生徒が同時にそれぞれの学習活動を行っている場合があり、一人一人の実現状況を正確に見取ることができないことも考えられます。そこで、「運動の技能」についてはビデオ等で記録しておき、評価の補助として活用することもよいでしょう。「運動についての思考・判断」「運動についての知識・理解」については、定期テストなどで問題づくりを工夫して、その解答状況を評価の補助とすることも考えられます。

●単元の観点別評価の総括

時間 観点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総括
運動への 関心・意欲・態度		B			A			A			B	B	B
運動についての 思考・判断		C				A	B		A				A
運動の技能				①B, ②B						B→A		A	A
運動についての 知識・技能			C		C	B		B	B				B

<観点別評価>

単元の観点別評価の総括は、単元を通して観点別に総括的な評価するというものです。そのため、どの観点も複数回の評価が行えるように設定し、そこから総括的な評価（記録に残す評価）としてA・B・Cを判断します。

総括的な評価の判定の方法としては、Aが半数以上の場合は総括的な評価はAとなり、Cが半数以上の場合は総括的な評価はCとなる。それ以外はBとする。（A A C B→総括「A」 A B C C→総括「C」）

<評価規準の設定>

単元の評価の計画は、取り上げる単元の評価規準をすべて評価できるように設定します。観察による評価は同一場面で複数の観点を見取することは難しいため、重ならないようにします。

<観点別評価の総括>

特に運動の技能については、「基本の動きや技能ができる」ことが重要であり、単元の後半にうまくできるようになることも多くなります。そのため、単元の前半よりも後半の評価に重み付けをすることも考えられます。時間の経過を加味した重み付けや定期テスト等の実現状況の加味など、各学校の保健体育の教員相互で共通理解した上で妥当性、信頼性の高い観点別の評価の総括を行っていく必要があります。

※ 本事例の10～11時目の評価において、10時目の活動での技の評価（運動の技能）は「おおむね満足」できる状況（B）でした。その際に該当の生徒は、技の質を高めるための助言を受け11時目で助言を基にした練習を行い、技の質を高めることができました。その変容を示すものとして矢印（→）で示しています。

◎単元の指導と評価計画を作成する上で留意すること

前述の「4 単元の指導と評価の計画」にあるように、観点ごとの評価を振り分けて設定し、計画を立てますが、以下の2点については十分留意する必要があります。

- ① 各観点の評価は、単元を通して複数回の判定を行うように計画すること。

評価の信頼性は、ひとつの観点について複数回の評価を行い、総括することで、より高まります。単元最後の記録会・発表会などの場面のみで、評価をすることがないようにしましょう。

時間	関心・意欲・ 態度	思考・判断	技能
1	○		
2			○
3	○	○	
4		○	○
5	○		
計	3回	2回	2回

表1 評価回数のチェック

② A/B/Cの判定を行う記録に残す評価（総括的な評価）と評価の計画に設定されない指導に生かす評価（形成的な評価）があること。

表1のように、その時間に行う評価の観点と内容は計画されています。これは、先生たちが、子どもたちの姿からA/B/Cの評価をし、指導簿等に記録していくということを明確にしたものになります。

注意したいのは、評価の計画がない場合も評価する場面があるということです。

例えば、その一つは、水泳のクロールで肘を高く上げることがうまくできていない生徒に、「手が空中にあるときは、手のひらを外側に向けてごらん」、「腕のかきと一緒に体も傾くようにしてごらん」などとアドバイスをする場合です。

生徒の活動している姿が評価規準に届いていないと判断した場合は、評価規準を達成できるように適宜、指導や支援を行うと思います。しかし、その場その場でA/B/Cの評価を行うのではなく、その後の評価の計画で設定された時間に評価規準に沿って評価をします。



もう一つは、それぞれの観点に照らして特に優れた活動状況が確認できた場合です。その生徒を称賛するとともに、その観点に対しての評価の材料として記録しておきます。

評価をする上で大切なことは、すべての生徒が「おおむね満足」（B）以上になるように、その都度の評価（見取り）を生かした指導を行うことです。日ごろの指導で大切にしたいのは「指導に生かす評価（形成的な評価）」であり、その見取りを適切な指導につなげていくことに力を注ぐ必要があります。そのような日ごろの指導と評価の総括として一定期間での生徒の活動状況を通知表や指導要録等に記録するために行うのが「記録に残す評価（総括的な評価）」ということになります。

ただ、「指導に生かす評価（形成的な評価）」については、1時間の授業の中でも様々な観点に照らし合わせたいくつものアドバイスや指導・支援を行っているのが現状です。指導計画として学習評価を考えた場合に、その一つ一つを指導案等の計画に表すことは、非常に難しくあまり効率のよいものではありません。その時間に評価をする観点を明確にするために「記録に残す評価」（総括的な評価）のみを指導計画として設定するようにしています。

中学校保健体育科における学習評価事例 2

■ 1 単位時間の形成的評価と総括的評価の方法が分かる事例

第1学年及び第2学年 「C 陸上競技」

体育分野「陸上競技（走り幅跳び）」第1学年

毎時間の評価では、生徒の活動の姿を形式的に評価する場面とその時間の総括として評価する場面があります。ここでは、形式的な評価の場面と総括的に評価する場面を、本単元の1時間の指導を例にして示していきます。

1 単元の目標

- (1) 次の運動について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、基本的な動きや効率のよい動きを身に付けることができるようにする。
 - ・走り幅跳びでは、スピードに乗った助走から素早く踏み切って跳ぶこと。
- (2) 陸上競技に積極的に取り組むとともに、ルールやマナーを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。
- (3) 陸上競技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方などを理解し、課題に応じた陸上の取り組み方を工夫できるようにする。

2 単元の評価規準

(○：第1学年の評価規準、●：第2学年の評価規準)

	運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
単元 の 評 価 規 準	○陸上競技の学習に積極的に取り組もうとしている。 ○勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとしている。 ○分担した役割を果たそうとしている。 ●仲間の学習を援助しようとしている。 ●健康・安全に留意している。	○技術を身に付けるための運動の行い方のポイントを見付けている。 ●課題に応じた練習方法を選んでいる。 ●仲間と協力する場面で、仲間のよい動きなどを指摘している。 ○学習した安全上の留意点を他の練習や競技場面に当てはめている。	○走り幅跳びでは、スピードに乗った助走から素早く踏み切って跳ぶことができる。 ●走り高跳びでは、リズムカルな助走から力強く踏み切って大きな動作で跳ぶことができる。	○陸上競技の特性や成り立ちについて、学習した具体例を挙げている。 ○技術の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。 ●陸上競技に関連して高まる体力について、学習した具体例を挙げている。
「単元の評価規準」は、国立教育政策研究所から公開されている「参考資料」に記載されている設定例です。単元計画を作る際には、下の「学習活動に即した評価」のように、 <u>学校・学級の状況に即した具体的な評価規準を設定します。</u>				
学習活動に即した評価規準	①自己の記録をより伸ばすことができるように積極的に取り組もうとする。 ②約束事を守り、仲間と練習の場を整えたり、着地場所や周囲の安全を確かめたりしようとする。 ③練習などを行う際に、器具の出し入れなどの分担した役割を果たそうとする。	①走り幅跳びの技術の合理的な動き方のポイントを見付けている。 ②仲間と学習する場面で、学習した安全上の留意点を当てはめている。	①自己に適した距離、または歩数の助走をすることができる。 ②踏み切り線に合わせて踏み切ることができる。 ③かがみ跳びやそり跳びなどの空中動作からの流れの中で着地することができる。 運動の技能の評価規準は、学習指導要領解説の〈例示〉を参考にしています。	①走り幅跳びの特性や成り立ちについて言ったり書き出したりしている。 ②走り幅跳びの技術の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。



本事例では、C陸上競技イの跳躍の単元として第1学年で走り幅跳びを、第2学年で走り高跳びを行うように計画しています。そのため、発達段階や競技特性を考慮して評価規準を設定しています。さらに単元の授業時数も6時間程度と短いため、各観点での評価する項目も第1学年と第2学年で振り分けています。

●指導内容及び「学習活動に即した評価規準」

ここでは、実際の授業を行う際の指導内容と評価規準を示しています。教師が授業の中で指導する内容とそれに対する生徒の実現状況の評価規準という関係は、「指導と評価の一体化」という原則に基づいたものです。

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
誰もが学習に積極的に取り組むことで技能が向上する可能性があること。 ↓ ①自己の記録をより伸ばすことができるように積極的に取り組もうとする。 学習のルールを守ったり、周囲や練習の場（特に砂地）の状態に留意したりすることで、自分や仲間が安全に学習することができること。 ↓ ②約束事を守り、仲間と練習の場を整えたり、着地場所や周囲の安全を確かめたりしようとする。 分担した役割を果たすことは、学習を円滑に進めることにつながることや、さらには社会生活をおくる上での責任感を育てることにつながる。 ↓ ③練習などを行う際に、器具の出し入れなどの分担した役割を果たそうとする。	走り幅跳びの技術を、助走、踏み切り、空中動作と着地に分け、それらを行うための合理的な動き方の提示。 ↓ ①走り幅跳びの技術の合理的な動き方のポイントを見付けている。 走り幅跳びの技術の習得のための課題学習や試技の場面において、学習した安全面の知識を活用する場面の設定。 ↓ ②仲間と学習する場面で、学習した安全上の留意点を当てはめている。	助走のスピード、踏み切る前の助走のリズム ↓ ①自己に適した距離、または歩数の助走をすることができる。 踏み切り位置を考えた助走距離の設定、踏み切りの態勢 ↓ ②踏み切り線に合わせて踏み切ることができる。 かがみ跳び・そり跳びの空中姿勢、着地動作の姿勢、一連の動作のスムーズさ ↓ ③かがみ跳びなどの空中動作からの流れの中で着地することができる。	陸上競技は、「歩く」「走る」「跳ぶ」「投げる」といった基本的な運動で構成されていること。 陸上競技は競争したり、自己の記録に挑戦したりする楽しさや喜びを味わうことの運動であること。 ↓ ①走り幅跳びの特性や成り立ちについて言ったり書き出したりしている。 助走のスピードを維持した踏み切ること 踏切線に合わせて踏み切ること。 空中動作にはかがみ跳びやそり跳びなどがあること。 ↓ ②走り幅跳びの技術の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。

□の中は指導内容を、丸数字は評価規準を示しています。

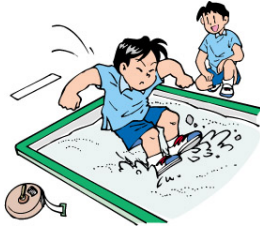
3 単元の指導と評価の計画（全6時間）

時間	主なねらい・学習活動	関心 意欲 態度	思考 判断	技能	知識 理解
1	オリエンテーション 1 学習のねらい 2 学習の進め方 3 場づくりの説明 4 学習ノートの使い方 5 練習の進め方 5 走り幅跳びの試技				
2	1 用具の準備 2 準備運動 3 めあての確認 スピードに乗った助走を目指そう				① 観察 学習カード
3	4 基本練習 ・短い助走からの跳躍（踏み切り直前の助走りズムの習得） ・踏み切り板を使った跳躍（跳躍の高さと浮遊感覚の体感） ・ゴム紐を使った跳躍（踏み切りの角度の確認） 5 助走距離を確かめる練習 （ペア活動）	② 観察 学習カード	② 観察 学習カード		
4	※助走距離を確かめながら跳躍する。 6 走り幅跳びの試技 ※一人3回程度	① 観察 学習カード		① 観察 学習カード	
5	1 用具の準備 2 準備運動 3 めあての確認 空中姿勢を工夫して跳躍距離を伸ばそう				② 観察 学習カード
6	4 基本練習 ・踏み切り板を使った跳躍（自分に合った空中姿勢の習得） ・ゴム紐を使った跳躍（踏み切り角度と着地姿勢の確認）	③ 観察	① 観察 学習カード		
7	5 空中姿勢と着地の練習 6 走り幅跳びの試技 ※一人3回程度	② 観察		③ 観察	
8	1 用具準備 2 準備運動 3 記録会の進め方の確認 4 個人練習 5 競技会 ※一人3回の試技 6 単元のまとめ			② 観察	② 観察 学習カード



4 本時の展開（7／8時間）

	学習内容・活動	評価方法及び評価規準
はじめ	1 集合、あいさつ、健康観察を行う。 2 活動を行う場や用具の準備を行う。 ・砂場の整地、助走路の準備（メジャー設置） ・練習補助具（踏み切り板、ゴム紐、ハードル等） 2 準備運動を行う （1）ランニング、ストレッチ、補強運動	形成的な評価（関意態③）：観察 率先して準備を行っている生徒に対し称賛を行い、準備を行っていない生徒には、自分ができる仕事を探すように促すようにする。 ※この観点については、前時に総括的評価を行っているため、特に積極的に活動している生徒、前時に「努力を要する」を評価した生徒の変容にのみ着目します。 ※関意態は関心・意欲・態度を示します。

な か	3 めあてを確認する。 空中姿勢を工夫して跳躍距離を伸ばそう 4 基本練習を行う。 ・踏み切り板を使った跳躍（自分に合った空中姿勢の習得） ・ゴム紐を使った跳躍（踏み切り角度と着地姿勢の確認） 5 空中姿勢と着地の練習を行う。 ・2人組で教え合いながら，空中姿勢を確認する。  6 走り幅跳びの試技を行う。 ・1人3回の試技を行う。 ・2人組の片方が試技を行い，もう片方は助走路や砂場の整備を行う。	形成的な評価(技能③)：観察 「4 基本練習」，「5 空中姿勢と着地の練習」での生徒の様子を観察しながら，空中動作から着地までの一連の動きがうまくいっていない生徒に着目し，適宜指導・助言を行う。 ★技能の習得の着眼点 ・「空中姿勢の上体のそり」 ・「着地での姿勢（足の伸膝と上体の戻し）」 次の活動「6 走り幅跳びの試技」の総括的な評価で，すべての生徒が【おおむね満足できる（B）】状況を達成できるように，本活動で評価に対する指導・支援を施すようにする。 【努力を要する】状況にある生徒への指導・助言 ・空中姿勢の上体のそりがうまくいかない場合 踏み切りの際に振り上げ足と反対側の腕を高く振り上げるように助言します。 ・着地姿勢がうまくいかない場合 長座体前屈の形になるよう伸ばした足先に手で触れるような意識をもつように助言します。 総括的な評価(技能③)：観察 かがみ跳びやそり跳びなどの空中動作からの流れの中で着地することができる。 3回の試技をおこなう際に，A/B/Cの評価を行います。教師は，上記の★技能の習得の着眼点を基に生徒の試技を観察し，名簿等のチェックリストにねらいに対する達成状況を記録する。 【十分満足できる（A）】と判断する状況 ◇スピードが乗った状態で高い踏み切りからスムーズに空中姿勢，着地という一連の動作ができる。
ま と め	7 整理運動・用具の片付けを行う。 8 本時のまとめを行う。 (1) 試技の記録を基に，本時の学習の反省を書く。 (2) 学習の成果や課題などのまとめを発表する。 (3) 次時の計画を立てて授業を終える。	総括的な評価(関意態③)：観察 用具の片付けを行う姿を観察し，A/B/Cの評価を行います。授業の最初での準備の姿を勘案しながら，チェックリストにその達成状況を記録する。 ※授業はじめの評価機会とこの評価機会を合わせて総括的な評価とします。両方の評価で，ともにAまたはCの場合はそれぞれA，Cとし，そのほかはBとします。

● 「運動についての思考・判断」の評価例

「運動についての思考・判断」の評価は、「課題に応じた運動の取り組み方を工夫している」状況を捉えて評価することになります。この観点は、ワークシートで捉える場合と一定期間の活動の様子を観察して捉える場合があります。本単元では「学習活動に即した評価規準」で設定した2点について、以下のように考えて評価方法を決定しました。

評価規準	①走り幅跳びの技術の合理的な動き方のポイントを見付けている。	②仲間と学習する場面で、学習した安全上の留意点を当てはめている。
着眼点	走り幅跳びの技能を習得する過程や、自分の目標（課題）を達成する過程で、どのような動きや意識を、どのような練習方法を選んで行ったか。	事前に指導した練習や試技を行う際の安全上のルールや、補助具を使った練習の際の用具の取り扱い、練習や試技を行う場（助走路・砂場）の安全確認などを、学習の形態などに応じて実行しているか
特徴	その活動の意図や思考した過程を見取る必要があり、観察だけでは明らかにならないことがほとんどである。また、目標（課題）に対して工夫した活動の意図をすべての生徒について確認する必要がある。	活動や場の状況に合わせて安全に留意した行動を取っているかどうかを見取る必要がある。また、実際の行動を見取る必要があるため、1単位時間の評価で終わらずに、ある一定期間の評価機会がないと生徒全員分の評価ができないことになる。
評価方法	ワークシート等の記述	教師の観察 ※本単元では第3時に評価機会を設定していますが、他の時間で特に優れた行動や指導・助言が必要な行動があった場合は、第3時の評価に加味するようにしました。

運動について思考・判断することが容易になるように作成したワークシートと実際の評価

～目標～

必ずその時間の活動目標を設定させました。書く内容は、数値よりも具体的な姿で書くように指導しました。

～練習計画～

「何の練習をするのか。」「どんな練習方法か。」を記述させました。

計画を立てさせることで、見通しをもって学習に取り組んだり、自分の課題に即してどのような練習が必要なのかを考えたりすることが可能になって行きます。赤字は授業の中で練習方法を変更したためです。

～記録～

数値を記録するのは、自分の学習活動を客観的に見つめるきっかけにもなります。

～学習の振り返り～

学習の目標達成度では、自分なりの自己評価をさせました。目標と照らし合わせて書く必要があるため、常に自分の課題を意識する必然性が出てきます。

次に、その点数（％）を分析する欄を設け、その点数（％）になった理由や練習の効果などを書き込ませています。理由や根拠をきちんと説明させるようにすることで、自分の運動への取り組み方を考えていくことにつながります。

目標	ふみきりを高く、着地で「つ」の形になる。			月 日 第 6 時
練習計画	◎ ふみきりの高さ → ゴムむ → <u>ぶらさがった目印にタッチ!! に変更</u> ◎ " → ふみきり板 ◎ 着地 → ゴムむ			
記録	1回目	2回目	3回目	
	472 cm	413 cm	475 cm	
学習の振り返り				
今日の学習の目標達成度は(90)%				
なぜ、90%かというと、最後の試技で人生新記録が出たからです。前回から練習したこと(特に着地が)体になじんできて、最後のひと伸びができてると実感しました。足りない10%は、バターのくんの記録が1センチ伸びたこと。自分アドバイスが足りないように思います。次はアドバイスがんばろう。				ここには次のことを書く。 ・○○%とした理由 ・練習の効果 ・よくなったこと ・気を付けたいこと ・次の時間の目標、意気込み

本事例では、このワークシートの記述状況を【おおむね満足（B）】と判断しました。

理由付けもきちんとできており、友達との関わりについても意欲を見せていることが分かります。本単元のねらいである、「合理的な動き方のポイント」を見付けることについて（赤線部分）は書かれているものの、ぼんやりしています。目標にある着地の「つ」の形を達成するために、どんな動きや意識に留意していたのかが書かれていれば、【十分満足（A）】の状況であると判断します。

中学校保健体育における学習評価事例 3

■ 保健分野における指導と評価の方法が分かる事例

保健分野 「健康な生活と疾病の予防」 第3学年

1 単元の目標

- (1)健康な生活と疾病の予防について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとすることができるようにする。
- (2)健康な生活と疾病の予防について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、科学的に考え、判断し、それらを表すことができるようにする。
- (3)健康の成り立ちと疾病の発生要因、生活行動・生活習慣と健康、喫煙、飲酒、薬物乱用と健康、感染症の予防、保健・医療機関や医薬品の有効利用、個人の健康を守る社会の取り組みについて、課題の解決に役立つ基礎的な事項及びそれらと生活のかかわりを理解することができるようにする。

2 単元の評価規準

	健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
単 元 の 評 価 規 準	健康な生活と疾病の予防について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	健康な生活と疾病の予防について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、科学的に考え、判断し、それらを表している。	健康の成り立ちと疾病の発生要因、生活行動・生活習慣と健康、喫煙、飲酒、薬物乱用と健康、感染症の予防、保健・医療機関や医薬品の有効利用、個人の健康を守る社会の取り組みについて、課題の解決に役立つ基礎的な事項及びそれらと生活のかかわりを理解している。
学 習 活 動 に 即 した 評 価 規 準	①健康な生活と疾病の予防について、健康に関する資料を見たり、自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 ②健康な生活と疾病の予防について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習に意欲的に取り組もうとしている。	①健康な生活と疾病の予防について、健康に関する資料等で調べたことを基に課題や解決方法を見付けたり、選んだりするなどして、それらを説明している。 ②健康な生活と疾病の予防について、学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見付けたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。	①健康の成り立ちと疾病の発生要因について理解したことを言ったり、書き出したりしている。 ②生活行動・生活習慣と健康について理解したことを言ったり、書き出したりしている。 ③喫煙、飲酒、薬物乱用と健康について理解したことを言ったり、書き出したりしている。 ④感染症の予防について理解したことを言ったり、書き出したりしている。 ⑤保健・医療機関や個人の健康を守る社会の取り組み、医薬品の有効利用について理解したことを言ったり、書き出したりしている。 ⑥個人の健康を守る社会の取組について理解したことを言ったり書き出したりしている。

「単元の評価規準」については、第2編「評価規準に盛り込むべき事項」を引用しています。また、「学習活動に即した評価規準」についても、同資料の「評価基準の設定例」を参考にして作成します。

3 指導と評価の計画（9 時間）

	ねらい・学習活動	評価規準			評価方法 関意態…関心・意欲・態度 思・判…思考・判断 知・理…知識・理解
		関心 意欲 態度	思考 判断	知識 理解	
1 健康を左右するもの／運動と健康	【ねらい】健康を維持について，課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組み，健康の成り立ちや運動することの効果，健康づくりのための運動の仕方について理解することができるようにする。 【学習活動】 1 健康の維持についての課題に気付く。 2 健康を損なう要因や健康を維持するための方法についてグループで話し合う。 3 健康の成り立ちについてワークシートにまとめる。 4 健康を維持するための運動の効果や運動の仕方について，自分の経験を振り返りながらワークシートにまとめ，グループで話し合う。	○		○	〈関意態－①〉（学習活動 2） 健康な生活と疾病の予防について，健康に関する資料を見たり，自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている状況を【観察・ワークシート】で捉える。 〈知・理－①〉（学習活動 3） 健康の成り立ちと疾病の発生要因について理解したこと書き出したりしている状況を【ワークシート】で捉える。
2 食生活や休養と健康	【ねらい】健康を維持するための食生活や休養について，自分たちの生活を振り返ったり，資料を見たりする学習活動に意欲的に取り組み，適度な食事や休養をとることが健康の維持につながることに理解することができるようにする。 【学習活動】 1 食生活や休養について教科書の資料を基に自分の経験を発表する。 2 自分の食生活や休養について事前に記録しておいたワークシートを基に自分の生活を振り返り，グループで意見交換する。 3 自分の健康を維持するためには，日常の運動や食生活，休養が大切であることをワークシートにまとめ，発表する。	○	○		〈思・判－②〉（学習活動 3） 健康な生活について，学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり，関係を見付けたりするなどして，筋道を立ててそれらを説明している状況を【観察・ワークシート】で捉える。 〈関意態－②〉（学習活動 2） 健康な生活について，課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習に意欲的に取り組もうとしている状況を【観察】で捉える。
3 生活習慣病とその予防	【ねらい】生活習慣病の種類やその要因について理解し，自分たちの生活を振り返りながら生活習慣病を予防する方法について考えることができるようにする。 【学習活動】 1 生活習慣病である疾病やその要因について資料を基にワークシートにまとめる。 2 がんを防ぐための 12 か条と自分の生活習慣を比較して，自分の生活を振り返る。 3 生活習慣病を予防するには，生活習慣を改善する必要があることをワークシートにまとめ，発表する。		○	○	〈思・判－②〉（学習活動 3） 健康な生活と疾病の予防について，学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり，関係を見付けたりするなどして，筋道を立ててそれらを説明している状況を【観察・ワークシート】で捉える。 〈知・理－①〉（学習活動 3） 生活行動・生活習慣と健康について理解したことを言ったり，書き出したりしている状況を【観察・ワークシート】で捉える。

4 喫煙と健康	【ねらい】喫煙について、資料を見たり、家族や社会の喫煙に関する環境を振り返ったりする学習活動に意欲的に取り組み、喫煙が喫煙者やその周りの人の健康を損なうことについて理解できるようにする。 【学習活動】 1 喫煙を進められたときに自分がどのような行動や考えをもっているか、グループで話し合う。 2 喫煙の影響について資料を参考にしてワークシートにまとめる。 3 喫煙に対する社会の環境について、自分の身の回りを振り返り、発表する。	○		○	〈関意態－①〉(学習活動3) 喫煙について、それに伴う体への影響についての資料を見たり、自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている状況を【観察・ワークシート】で捉える。 〈知・理－③〉(学習活動2) 喫煙と健康について理解したことを言ったり、書き出ししたりしている状況を【ワークシート】で捉える。
5 飲酒と健康	【ねらい】飲酒について、資料から自分の体への影響やその害について理解し、飲酒と健康について自分の考えをもつことができるようにする。 【学習活動】 1 飲酒によるアルコールの人体への影響や害について、資料を参考にワークシートにまとめる。 2 飲酒に対して自分の考えをもち、グループで発表する。 3 将来の自分の飲酒に対する心構えをワークシートにまとめ、発表する。			○	〈知・理－③〉(学習活動2) 飲酒と健康について理解したことを言ったり、書き出ししたりしている状況を【ワークシート】で捉える。
6 薬物乱用と健康	【ねらい】薬物についての正しい知識をもち、さらに自分の健康や社会への影響について理解することができるようにする。 【学習活動】 1 児童生徒の薬物乱用についての実態を知る。 2 薬物乱用の害について資料を基にまとめる。 3 薬物乱用は、自分の健康を害し、社会に悪影響を及ぼすことについて、ワークシートにまとめ、発表する。			○	〈知・理－③〉(学習活動2) 薬物乱用と健康について理解したことを言ったり、書き出ししたりしている状況を【観察・ワークシート】で捉える。
7 喫煙・飲酒・薬物乱用の要因	【ねらい】喫煙・飲酒・薬物乱用などの行為について、資料を見たり、自分たちの考えを話し合う活動に意欲的に取り組み、心身への影響や喫煙・飲酒・薬物摂取などの行為に誘われた時への対処方法を理解することができるようにする。 【学習活動】 1 なぜ未成年が喫煙や飲酒・薬物乱用などの行為を行ってしまったかについて、資料を参考にして自分がどのような対処をするか話し合う。 2 身の回りにある喫煙・飲酒・薬物乱用に関する社会環境について振り返り、発表する。 3 自分が喫煙・飲酒・薬物乱用などから身を守るための方法を考え、その方法をグループで話し合う。	○	○		〈関意態－①〉(学習活動3) 喫煙・飲酒・薬物乱用について、関連する資料を見たり、自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている状況を【観察】で捉える。 〈思・判－①〉(学習活動3) 喫煙・飲酒・薬物乱用から身を守るために、健康に関する資料等で調べたことを基に解決方法を見付けたり、選んだりするなどして、それらを説明している状況を【観察・ワークシート】で捉える。

8 感染症とその 予防／エイズ	【ねらい】感染症について、資料を見たり、自分を振り返ったりする活動に積極的に取り組み、感染症の原因やその予防について理解することができるようにする。 【学習活動】 1 感染症が起こる原因についてグループで話し合う。 2 感染症の原因や予防のための対策について資料を基にまとめる 3 性感染症やエイズについて分かったことをワークシートにまとめる。			○	〈知・理－④〉(学習活動3) 感染症の予防について理解したことを言ったり、書き出したりしている状況を【ワークシート】で捉える。
9 に生 きる 社会 保健・医療 機関と医薬 品の有効利 用／共	【ねらい】健康を支える施設や社会の取り組み、医薬品について、その役割や利用方法を理解し、健康を維持するための身の回りの取り組みについて考えることができるようにする。 【学習活動】 1 健康を損ねたときに利用したことのある施設や医薬品などを発表する。 2 健康を支える施設の役割や医薬品の有効利用についてワークシートにまとめる。 3 健康を支える社会の取り組みについて理解する。 4 自分が健康に生きていくために今からできることや心掛けていくことについて単元を振り返りワークシートにまとめる。		○	○	〈知・理－⑤〉(学習活動2, 3) 保健・医療機関や個人の健康を守る社会の取り組み、医薬品の有効利用について理解したことを言ったり、書き出したりしている。 〈思・判－②〉(学習活動4) 健康な生活と疾病の予防について、学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見付けたりするなどして、自分のこれからの生活に生かすための解決方法を筋道を立てて書き出している状況を【ワークシート】で捉える。
評価機会		4	4	7	

本単元は、健康な生活と病気の予防についての理解を深める学習です。ここでは、健康な生活を送るための適切な知識を理解し、自分の生活に生かしていこうとする態度や思考・判断を身に付けることがねらいです。

特に保健分野の学習では、自分たちの生活を振り返りながら、正しい知識を確実に習得させていくような授業づくりをするように心掛ける必要があります。そのため、本単元でも、「健康・安全についての知識・理解」の評価機会を多く設定しているのは、指導の重点を知識の習得に置いているからです。

また、「健康・安全への関心・意欲・態度」の評価については、自己の生活を振り返ったり、グループでそれぞれの経験や気づき、解決方法などを話し合ったり場面を想定して設定しました。学んだ知識を自分たちの生活に生かしていこうとする意欲や態度を育てるためには、まず、自分の姿を振り返って自分自身の課題をもたせる必要があるからです。さらに、友達との意見交換を通して、多角的な見方や考え方も身に付けていく必要があります。評価機会はさほど多くありませんが、それぞれの時間での課題意識を十分にもたせるための導入や資料提示の工夫をするように心掛けましょう。

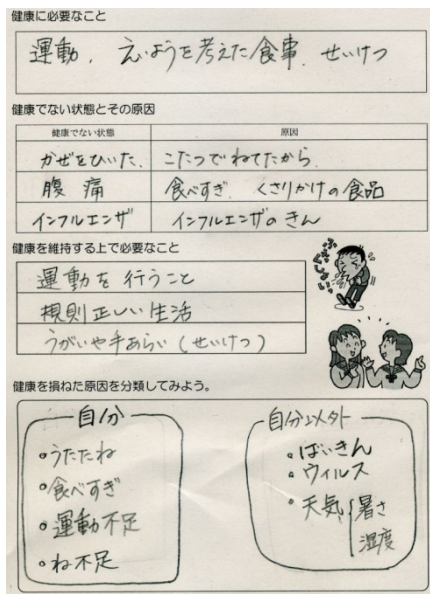
「健康・安全についての思考・判断」については、学んだ知識を自分の生活にどう生かしていくかを考えられるように設定しています。その考えの根拠や原因を明確にしながら説明していくことが大切になってきます。そのためにも、考えの過程が明確になるようなワークシートを準備する必要があります。

※観察による評価については、すべての生徒の活動状況を確認することができないため、観察の視点や評価規準をより具体的に持つておくことが大切です。



観点別評価の例

「健康・安全への関心・意欲・態度」の評価例

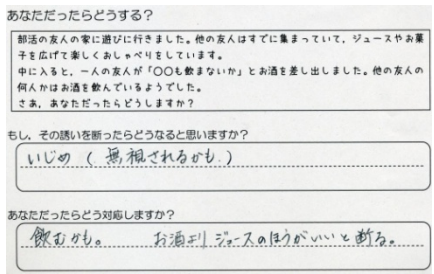
1 / 9 時 単元の評価規準「健康・安全への関心・意欲・態度」－①									
学習活動に即した評価規準 ①健康な生活と疾病の予防について、健康に関する資料を見たり、自分たちの生活を振り返ったりする等の学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	 健康に必要なこと 運動、ふつふつ考える食事、せいっ 健康でない状態とその原因 <table border="1"> <thead> <tr> <th>健康でない状態</th><th>原因</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>かぜをひいた</td><td>こたつでわてたから</td></tr> <tr> <td>腹痛</td><td>食べすぎ、くすりかけの食品</td></tr> <tr> <td>インフルエンザ</td><td>インフルエンザのきん</td></tr> </tbody> </table> 健康を維持する上で必要なこと 運動を 行うこと 規則正しい生活 うがいや手あらい（せいっ） 健康を損ねた原因を分類してみよう。 自分 - うたたね - 食べすぎ - 運動不足 - おね不足 自分以外 - ばいじん - ウイルス - 天気、暑さ、湿度	健康でない状態	原因	かぜをひいた	こたつでわてたから	腹痛	食べすぎ、くすりかけの食品	インフルエンザ	インフルエンザのきん
健康でない状態	原因								
かぜをひいた	こたつでわてたから								
腹痛	食べすぎ、くすりかけの食品								
インフルエンザ	インフルエンザのきん								
学習活動 2 自分の健康な状態と健康を損ねた状態を振り返らせ、ワークシートにまとめさせた上で、グループで健康を維持する上で必要なことや健康を損ねる要因を話し合わせる活動を仕組みました。									
評価 自分の健康を振り返り、健康な状態と健康を損ねた状態を書き出し、グループでの話し合いを通して、健康を維持する上で必要なことと健康を損ねる要因を記述している状況をワークシートの記述において評価しました。									
評価を A とする状況 話し合いの場面での自他の考えを結び付けてその結果を書き出している。	※ ワークシートの「健康に必要なこと」「健康でない状態とその原因」で記述した内容が「健康を維持する上で必要なこと」「原因の分類」を記述する際に、話し合いで得た情報や考えも加わっていることが分かる。自分の考えだけでなく、積極的に話し合ったことを生かそうとしているとして「A」と判断しました。								
評価が B に達しないと考える生徒への手立て 自分の振り返りが十分にできない生徒には、口頭で病気になったときの状況を聞き出すようにしました。話し合い後の記述が不十分な生徒には、自分の問題で病気になった場合と外的環境が原因で病気になった場合を区別して考えさせるようにしました。									

「健康・安全についての知識・理解」の評価例

4 / 9 時 単元の評価規準「健康・安全についての知識・理解」－③	
学習活動に即した評価規準	
①喫煙と健康について理解したことを言ったり、書き出したりしている。	
学習活動 2	
教科書にある資料を提示ながら人体への影響についてワークシートにまとめさせました。また、ワークシートには、「タバコを吸っている人に一言！」という欄を設け、自分が喫煙に対して考えたことを記入させるようにしました。	
評価	
評価を A とする状況	「たばこを吸っている人に一言！」の欄に、いくつかの喫煙の影響を挙げながら自分の考えを書いている。
評価が B に達しないと考える生徒への手立て	※ たばこの害について、学習したことを漏らさず書き出すことができており、「〇〇にひとこ

ていない考えに対しては、どの資料からそう思ったのかを聞き出すようにした。	と！」で、喫煙者である〇〇先生についてへの影響や受動喫煙を挙げて書き出しているので「A」と判断しました。
--------------------------------------	--

「健康・安全についての思考・判断」の評価例

7 / 9 時 単元の評価規準「健康・安全についての思考・判断」－①	
学習活動に即した評価規準 ①喫煙・飲酒・薬物乱用から身を守るために、健康に関する資料等で調べたことを基に解決方法を見付けたり、選んだりするなどして、それらを説明している。	
学習活動 2 「喫煙・飲酒の誘いに対処する」として、その対処についての自分の考えや予想を記述させ、グループで発表後、よりよい対処の方法を考えさせました。さらに、日本と外国のたばこのポスターを提示し、両者を比較させながら広告から読み取れることを基に自分の考えを説明させるようにしました。	
評価 喫煙・飲酒の誘いに対する断り方や広告に潜む問題点を自分なりに考え、理由や根拠を挙げて記述や発表をしているかを評価しました。	 あなただったらどうする？ 前述の友人の家に遊びに行きました。他の友人はすでに集まっていて、ジュースやお菓子を広げて楽しくおしゃべりしています。中に入ると、一人の友人が「〇〇も飲まないか」とお酒を差し出しました。他の友人の何人かはお酒を飲んでいました。 さあ、あなただったらどうしますか？ もし、その誘いを断ったらどうなると思いますか？ いじめ（無視されるかも） あなただったらどう対応しますか？ 飲まねども お酒よりジュースの方がいいと断る。 ※対処法は「お酒よりジュースがいいと断る」と具体的な方法は書けています。おおむね満足 (B) の自分なりの対処法は考えているものの、その根拠や理由付けがないこと、場の雰囲気等が記述内容に反映されていないことなどから十分満足 (A) には達しないと判断しました。この後、グループでの話し合いを再度もたせ、それぞれの断り方のよいところや改善した方がよいところなどを確認しました。
評価を A とする状況 自分なりの対処の方法と広告に潜む問題点について、なぜそのように考えたのかが分かるように理由や根拠と結び付けて記述したり発表したりしている。	
評価が B に達しないと考える生徒への手立て 対処法が思い浮かばない生徒には、断ることを前提としてその理由付けを考えさせる。また、広告を見て広告に潜む問題が思い浮かばない生徒には、外国のポスターから読み取れることを確認し、ポスターの意図を確認した上で日本のポスターについて考えさせる。	

中学校保健体育科における学習評価の進め方Q & A

Q 形成的な評価と総括的な評価という言葉がありますが、どのような違いがあるのですか？

A 総括的な評価…学習活動が一区切りした際に、指導と学習の成果を確認するために行う評価です。

その活動の中での活動状況を、「十分満足できる」と判断されるものをA、「おおむね満足できる」と判断できるものをB、「努力を要する」と判断されるものをCで評価します。1単位時間の最終的な評価や単元終了時の各観点の評価、通知表、指導要録の評価も総括的な評価にあたります。この総括的な評価は、「1学期の評価を2学期の評価に生かす」、「第1学年での評価を第2学年での評価に生かす」といったように、長いスパンで考えたときには、形成的な評価と捉えることもできます。

形成的な評価…学習指導の途中で、学習活動の促進と指導方法の確認・修正のために行う評価です。

この形成的な評価を行いながら生徒の活動状況を適宜把握していきます。その上で、一定期間(1単位時間や単元)の指導目標に到達するように、指導や助言を行うことになります。このことから、形成的な評価は「指導に生かす評価」であるといえます。授業の中では、形成的な評価を行った際に、このまま活動を進めていくと総括的な評価で「努力を要する」状況(C)と判断されるような生徒に対しては、より「おおむね満足できる」状況(B)に近付くように指導や助言を行います。また、すでに「十分満足できる」状況(A)にある生徒に対して称賛の言葉をかけたり、「おおむね満足できる」状況(B)の生徒に対し、「十分満足できる」状況(A)に向かわせるための助言を行ったりします。形成的な評価を適宜行うからこそ、生徒の個々の状況に合わせて手立てを施すことが可能になるのです。

Q 体育科における評価で特に留意すべき点は何ですか？

A より具体的な生徒の姿を評価規準として設定しておくことです。

体育分野の場合、実際の学習活動における評価は、動きの中で行う場合が多くなります。そのため、同じ活動の様子を何度も観察することが難しく、一連の動きの中から評価する必要があります。そのような活動を評価していくためには、評価規準をより具体的な姿として設定しておくことが重要になってきます。そうすることで、評価すべき点を絞って生徒の活動の様子を観察することができます。また、具体的な姿を評価規準とすることで、そのつまずきに対する支援もより具体的になってくると考えられます。

A 量的な評価規準にならないようにします。

体育分野の評価においては、タイムや距離などの記録に引きずられた評価にならないようにしなければいけません。例えばハードル走において、ハードルを滑らかにハードルを越せていないにもかかわらず、相対的にタイムがよいから運動の技能の評価が「十分満足できる」状況(A)とするケースです。「遠くから踏み切り、勢いよくハードルを飛び越せているか」というハードルの越え方や走り方の質に関わる評価であれば、タイムや距離などの記録に関わりなく、その生徒の身に付けた技能を評価することができます。指導したことが正しく身に付いているかどうかを適切に評価することが大切です。

Q 保健分野の評価規準はどのように設定したらよいですか？

A 国立教育政策研究所からの資料を参考することで比較的簡単に設定することができます。

保健分野の評価については、学習指導要領の内容のまとめと実際の単元がほぼ一致しています。単元の評価規準は国立教育政策研究所の「評価規準の作成のための参考資料」の中の「評価規準に盛り込む事項」を、学習活動に即した評価規準(各1単位時間の評価規準)は同参考資料の「評価規準の設定例」をそれぞれ参考にすることで評価規準を設定することができます。

この手引きは、国立教育政策研究所で公開されている「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」(中学校)などを参考にして、作成しています。以下のURLをご参照ください。

<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html>